中央大学
国文学会
講演会

# 詩を詠み、史を編む

## ――頼山陽の場合――

講師　揖斐（いび）　高（たかし）　先生

詩人の魂と、歴史家の眼を
兼ね備えた不世出の文人の生涯

【講演概要】
歴史に生きる人間の姿を鮮明に描き出した『日本外史』――その著者である頼山陽の詩人としてのあり方と、歴史叙述の方法を探る。

【講師プロフィール】
成蹊大学名誉教授。日本学士院会員。近世漢文学研究の領域において、近世初頭から後期、さらに明治三〇年代までに渡って、日本漢詩の展開を明快に跡づけた。
柏木如亭の伝記並びに作品の研究や、頼山陽の詠史詩について新たな見方を提示したこと、さらに菊池五山の『五山堂詩話』が漢詩の大衆化に果たした役割を検証したことも高く評価されている。
【主要著書】
『江戸詩歌論』（汲古書院）、『遊人の抒情――柏木如亭』（岩波書店）、『江戸の詩壇ジャーナリズム――『五山堂詩話』の世界――』（角川書店）、『頼山陽――詩魂と史眼』（岩波新書）など。

**2024/11/6（水）4限（15:10～16:50）**

会場：中央大学多摩キャンパス
FOREST GATEWAY CHUO 3階ホール

参加費、事前申込は不要です。直接会場にお越しください。
問い合わせ先：中央大学国文学会（chuo.kokubungaku.kai@gmail.com）